

(様式 3)

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	太幡 直也 (たばた なおや)	所属	愛知学院大学 総合政策学部
研究会等名称	公益社団法人日本心理学会欺瞞的コミュニケーション研究会		
成果概要	<p>本研究会は、欺瞞・隠蔽など、欺瞞的コミュニケーションに関する研究に関心がある研究者が、研究発表、議論を行うことを目的とし、2011年9月に発足した。本年度は、2016年9月18日に開催された日本社会心理学会第57回大会の自主企画シンポジウムにて、研究集会を実施した。活動内容の詳細は、研究会ホームページ (http://drt.secret.jp/index.html) に掲載されている。</p> <p>1) 参加人数 会員 8名 非会員 約60名</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 代表者、佐藤拓氏(いわき明星大学)の2名を企画者として、日本社会心理学会第57回大会の自主企画シンポジウム(『「隠す」心理を科学する—欺瞞的コミュニケーション研究の最前線—』)として開催した。話題提供者は朴喜静氏(Daegu Metropolitan Police Agency)、藤原健氏(大阪経済大学)、丹野宏昭氏(東京福祉大学)、指定討論者は村井潤一郎氏(文京学院大学)であり、概要は以下の通りであった。社会、認知、発達、臨床、生理など、心理学の多岐の分野にわたる研究者が参加し、質疑応答の時間には活発なディスカッションを行った。</p> <p>(日本社会心理学会第57回大会発表論文集から抜粋) われわれの社会生活では、隠し事をする、嘘をつくなど、「隠す」という行為は不可欠のものである。したがって、「隠す」心理を探求することを通し、人間の特徴をより深く理解できると考えられる。本ワークショップでは、隠し事や嘘が用いられるコミュニケーション、すなわち欺瞞的コミュニケーションの最新の研究に関する話題提供や議論を通し、「隠す」という観点から人間の特徴の理解を深めることを試みる。</p> <p>本ワークショップでは、3名の話題提供者が登壇する。最初に話題提供する朴は、嘘をつく行為者の感情に焦点を当て、行為者の感情統制能力が非言語行動に及ぼす影響について紹介し、正確な嘘の解釈および捜査場面での活用性について報告する。続いて話題提供する藤原は、隠匿情報検査を用いた欺瞞検知に着目し、欺瞞検知と、否定の手振りや社会的スキルなどとの関連について報告する。最後に話題提供する丹野は、近年ブームとなっている人狼ゲームを扱った心理学や関連領域の研究について紹介する。人狼ゲームは、参加者同士で嘘をついたり、嘘をついている人間を探したりする、欺瞞的コミュニケーションをベースとしたコミュニケーションゲームである。</p> <p>最後に、総合的な討論において、欺瞞的コミュニケーションに関する研究の今後の可能性について議論する。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
欺瞞的コミュニケーション研究会				
研究集会開催日：2016年9月18日				
	氏名	所属	会員番号	認定番号
1	太幡 直也	愛知学院大学総合政策学部	030095	
2	佐藤 拓	いわき明星大学人文学部	040301	
3	村井 潤一郎	文京学院大学人間学部	956507	
4	武田 美亜	青山学院女子短期大学	010101	
5	上原 俊介	鈴鹿医療科学大学保健衛生学部	030153	
6	中川 知宏	近畿大学総合社会学部	002398	
7	向居 暁	県立広島大学人間文化学部	953523	
8	丹野 宏昭	東京福祉大学 心理学部心理学科	040288	
9				
10				
11				
12		その他 非会員約60名参加		
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2017年3月22日

日本心理学会研究会2016年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会欺瞞的コミュニケーション研究会

研究会番号 研16008

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2016年9月18日	発表者交通費補助 (朴喜静・研究会非会員)	¥30,000
支出合計		¥30,000